

stereo

2022
09



[特集] 厳選!

オーディオ スポット 巡礼

・ステレオ誌が選ぶ、一度は訪れたい孤高の音スポット
・盛岡良い音探しの旅

次世代環境対応と 多機能をシンプルなスタイルに凝縮 先進の電源とアンプ技術で、 音質的な進化も果たした

英国製の特長であるシンプルでコンパクトが魅力のクリークだが、
実はこのVoyageシリーズは、先進かつ次世代の
環境性能を意識した内容を持つ。
しかも音質的に妥協せず、音質重視の内容も特徴的だ。
この高度なバランスが英国製の魅力ともいえるのだろう。
ここではそのVoyageシリーズの特質を
試聴により明らかにする。

TEXT: 岩井喬 Photo: 松永睦



クリーク Voyage i20

プリ・メインアンプ ¥704,000

音質追及と環境性能を
スタイルッシュな
デザインに集約した

1981年にブランドとして初めて
のプリメインアンプCAS4040を
送り出して以来、リーズナブルであり
ながらも高いパフォーマンスを發揮で
きる製品を開発し続けてきた、英國クリー
ク。創業者であるマイク・クリーク
は父、ボブ・クリークが経営していたウ
インザー・コーディング・カンパニー
で腕を磨き、1976年にはオーディオ
設計コンサルタント会社を興して、様々
なブランドのオーディオ製品設計に携
わってきた経験を持つ。ゆえに創業時
から卓越した技術に裏づけられたハイ
パフォーマンスな製品を開発できたの
である。その系譜は2020年、ルー
ク・クラークに受け継がれ、ブランドは
新たな旅立ちの時を迎えた。それが今
回取り上げるVoyageシリーズだ。
近年のクリークはDestinyシリ
ーズやEvolutionシリーズ
といった創業以来のリーズナブルなが
ら高性能を誇る製品群を展開してきた
が、現在はVoyageシリーズにリ
ソースを収束させている。そして高い
技術力をベースに最高のパーツを取り



3



2



1

1 試聴室で組み合わせ試聴した。強力なパワーレシオでフォステクス

のモニターを軽々とドライブした

2 CDメカは信頼のあるストリームアンリミテッド性のスロットインタイプ

3 DAC部はDSD256に対応する

入れつつ、人間工学に基づく優れたデザインと操作性を兼ね備えた、高級市場に受け入れられる製品作りへと舵を切った。まさにVoyageの名前の通り、新たなる船出となる記念すべきデバゲクトとなつたのである。低価格路線では疲弊してゆくだけであるという判断も背景にはあつたと考えられるが、世界中で叫ばれているサステナブルな企業活動という側面においても、これまでの路線踏襲では製品開発自体も難しくなってしまう。高級路線への転換に加え、環境に優しい省エネ設計であ

りながら、最高音質を目指す。Voyageシリーズにはこうした現在の世情を踏まえた設計思想が取り入れられた製品群でもあるのだ。

Voyageシリーズは英国らしい高さ80mmという薄型設計のボディ構成を踏襲しつつ、丸みを帯びたサンドブラスト仕上げの12mm厚アルミフロントパネルを持った上品な装い。ラインナップとしてはBluetooth機能やUSB-DACを内蔵した、プリメインアンプVoyage-i20とCDプレーヤーVoyage-CDの2製品構

クリーク Voyage CD

CDプレーヤー +DAC ¥385,000

クリークVoyageシリーズ。英国流シンプルでスマートなコンポだが、音楽を楽しむ方法にことに長けている。しかも環境性能にも優れる

強力なパワーレシオを実現した 高速スイッチング電源と 先進のGクラスアンプ

成。共にスタイリッシュなパネルデザインが印象的であるが、このユーチャイントーケフェイスの設計にはルーク・クレークが携わっているという。

まずVoyage-i20の特徴ではあるが、4系統のRCA入力、1系統のXLRバランス入力、2系統ずつの同軸・光デジタル入力、1系統のUSB入力という10系統の入力を備えるプリメインアンプであり、48kHz/24bitでのハイレゾ級伝送を可能とするapt-X HDコードックに対応したBluetooth機能や、フロントパネルには視認性の高い有機ELディスプレイを搭載。ボリュームには日清紡マイクロデバイス製MUSES電子ボリュームを取り入れ、高精度な音量調整を実現している。

DACチップはAKM製AK4493を搭載。USB入力は384kHz/32bit・PCM&5・6MHz・DS-Dに対応し、DAC部とはガルバニック絶縁によってグラウンドループや干渉の影響を抑えている。そしてオプションとして用意されている内部プログラ

イン型フォノカーデSEQUEL-M K4を用いたフォノ入力（RCAアナログ入力4系統のうち1系統を割り当てる）に対応している点もトピックのひとつ。MM型や高出力MC型に対応しており、昨今のレコード人気にも応えた仕様となっている。

出力段についてはサンケン電気製STD03型温度補償機能つきバイポーラトランジスターを採用、複数のMOS-FETによって増強され、必要に応じて大きな出力電流を供給できるよう設計されたという。バイアスについてはクラスAB方式をより効率的に進化させ、2つの電圧レベルで動作させるクラスG方式を採用。入力信号と出力信号を常時トレースし、高い入力信号を検知した場合、必要に応じて一時的に高電圧供給に切り換える、効率よく高出力を得られるようにしたものだ。

結果的に発熱も抑え、ヒートシンクもコンパクトにすることができ、本体のスリム化にも貢献しているのである。さらに省エネの観点で大きな効果を上げているのが、オーディオ用に最適化された大容量スイッチング電源の採用だ。電圧は安定化され、1500Wという供給能力を持ちながらノイズなどの影響を抑えて音質にこだわった造

りとした。クラスG方式で必要となる複数の電圧レベル供給においても、スイッチング電源による綿密な電圧マネジメントが奏功し、巨大なトランスから解放された、取り回しの良いサイズを実現したともいえるだろう。

C D機は高性能D A C部を搭載 ハイレゾ再生から ディスク再生までカバー

そしてプレーヤーのVoyage C Dは堅牢かつ信頼性の高いストリームアンリミテッド社製CD80シロットイン型ドライブメカを取り入れており、DACチップにはAKM製AK4493を採用。デジタル入力は同軸・光を2系統ずつ、さらに1系統のUSB入力も備えたデジタルプリとしての機能性も有している。USB入力は384kHz/32bit・PCM&22・4MHz・DSDに対応。アナログ段には2基のTI製OPA2134オペアンプによるバッファ回路に加え、MELF抵抗やWIMA社製フィルムコンデンサーによるフィルター回路を構築している。シャーシは



1



2



3

2mm厚スチール製で、電源はVoyage i-20同様スイッチング方式採用。さらにデジタル部／アナログ部を分離して構成した、複数のディスクリート電源レギュレーターによって、一層クリーンで正確な電圧を確保しているという。

ドライブ力が高く ロックのリズム隊も どつしりとした厚みを持つ

試聴ではまずVoyageシリーズ

同士をXLRケーブルで繋ぎ、CDの音質を確認してみた。適度に潤いを感じさせる流麗で伸びやかなサウンド傾向であり、全体的な解像度の高さに加え、音像のフォーカスのよさも兼ね備えている。ドライブ力も高く、ロックのリズム隊もどつしりとした厚みを持たせ、ドライに表現。落ち着きよい音調

11・2MHz音源も普通に再生でき Bluetooth再生も含め 高いデジタル対応力を持つ

続いてVoyage i-20のUSB

入力にハイレゾDAP、アステル&ケルンのSP2000を繋いでハイレゾ音源の再生も試す。11・2MHz音源も普

- 1 11.2MHzDSDのソースをプリ・メイン内蔵のDACで試聴
- 2 スマホからの音楽をワイヤレスで試聴する
- 3 オプションのフォノイコライザSequel mk4を内蔵されれば、MM、ハイMCの試聴が可能になる。ここではナガオカのMMタイプMP-500とJT-80BKを試聴した



Line 1 -10dB



プリ・メインアンプ Voyage i20
のリアパネル



USB 48.0 kHz



CDプレーヤー+DAC Voyage CD
のリアパネル

Spec

[Voyage i20]

出力●120W×2/8Ω/1% THD 240W×2/4Ω/1% THD 480W×2/2Ω/1% THD

全高調波歪率・ノイズ●&<0.002%/20Hz~20kHz

SN比●102dBA Line input

周波数特性●1Hz~100kHz, +/-2dB

プリ入力●RCA(un-balanced)×4, XLR(balanced)

プリ出力●RCA(unbalanced)

デジタル入力●SPDIF Co-Axial×2(192kHz, 24-bit) TOSLINK×2 (192kHz, 24-bit)
USB class 2 (PCM:384kHz, 32-bit. DSD 64 and 128)

Bluetooth●aptX HD

外形寸法●430W×80H×350Dmm

重量●9kgs

[Voyage CD]

DACタイプ●AK4493EQプレミアムグレード/AKM 32bit 768kHz

デジタル入力●SPDIF×2, 24Bit 192kHz, TOSLINK×2/24bit 192kHz
非同期USBクラス2/32bit 384kHz

CDトランスポーター●ストリームアンリミテッド製CD80

デジタル出力●同軸SPDIF, TOSLINK

SN比●123dB

全高調波歪率+ノイズ●113dB OSRD(Over Sampling Ratio Doubler)通常モードで 126dB

サンプルレート●PCM:8kHz~384kHz DSD:22.4MHz

アナログ出力●RCAアンバランス, 2.0V RMS, XLRバランス4.0V RMS

外形寸法●430W×80H×350Dmm

重量●6.8kg

問い合わせ先●株ハイ・ファイ・ジャパン Tel 03-3288-5231



Voyage i20の内部。強力なスイッチング電源により、スペースファクターの向上が見て取れる

さる滑らかでウォームなトーンだ。
通に再生でき、しつとりとしたピアノと女性ヴォーカルの落ち着いた上品なサウンドを楽しめた。音場もS/N良く澄み渡り、オーケストラの躍動感やハーモニーの抑揚も丁寧かつナチュラルに表現。楽器の音離れのよさも印象的であった。aptX HDコードックによるBluetooth接続でも潤いのある

通に再生でき、しつとりとしたピアノと女性ヴォーカルの落ち着いた上品なサウンドを楽しめた。音場もS/N良く澄み渡り、オーケストラの躍動感やハーモニーの抑揚も丁寧かつナチュラルに表現。楽器の音離れのよさも印象的であった。aptX HDコードックによるBluetooth接続でも潤いのある

**オプションの
フォノボードを追加すれば
アナログ再生も楽しめる**

爽やかな音を楽しめるが、いくぶんマイルドで穏やかな傾向にまとまる。気軽に楽しむ分には十分上質なサウンドといえるだろう。

最後にオプションのフォノ入力も試聴。カートリッジはナガオカのMP型フラッグシップMP-500とMM型のJT-80BKを聴いてみたが、MP-500は伸びのよいクールで意像の輪郭をキリッと描く解像度指向のサウンド傾向である。一方JT-80Bはアナログらしいふくよかさを感じ

**英國らしい音楽に寄り添つた
落ち着いたサウンドを持つ
良質なコンポーネント**

Voyageシリーズはクリークの新機軸として、サステナブルな新常識の世界を渡り歩く、表現力の高さと、シームレスで耳馴染みよい落ち着いた

音調を兼ね備えたシステムといえるだろ。最後のレコード試聴でもカートリッジの持つ特色も的確に描き分け、レコードの情報量の豊かさにも気づかせてくれた。どんなソースでもその魅力を最大限引き出し、音楽の本質に迫りつつも硬くなりすぎず、柔軟に聴かせる懐の深さ。英国らしい音楽に寄り添つた、落ち着いたサウンドを堪能できる良質なコンポーネントだ。

CREEK

VOYAGE SERIES

Creek has made an excellent entry into the premium class.



培ってきた伝統に最新技術を融合させた、英国老舗ブランド「クリーク」の新機軸ヴォヤージシリーズ

Voyage CD - CD Player + DAC

¥385,000(税込)

Voyage i20 - Integrated Amplifier + DAC

¥704,000(税込)

Creek Audio

Proudly designed in the U.K. and made in Europe.

株式会社ハイ・ファイ・ジャパン 〒102-0075 東京都千代田区三番町1-8 tel: 03-3288-5231 fax: 03-3288-5233

www.creekaudio.com / www.hifijapan.co.jp